

令和5年度 第3回江別市学校給食会理事会

日 時 令和5年10月16日(月) 午後6時30分
場 所 江別市教育庁舎1階 大会議室

次 第

1 開 会

2 理事長挨拶

3 議 事

審議事項第1号 江別市学校給食費の改定について

4 そ の 他

5 閉 会

江別市学校給食費の改定について

1 給食費改定の経緯

昨今の物価高騰は、今後においても継続するものと予想され、給食の原材料費が上昇していく中で、給食会計がより厳しいものとなることが見込まれる。

令和4年度及び令和5年度は、市から補助金の交付を受け、保護者負担を増やすことなく、栄養バランスや量を保った給食を提供してきたところであるが、令和6年度において、こうした補助がなかった場合、約5,200万円の収支不足が見込まれることから、収支給食を安定的に提供し続けるためには、給食費単価の改定はやむを得ないものと考えられる。

このことから、令和5年9月28日に開催された第2回江別市学校給食会理事会において、事務局から当市の給食における現状を報告後、質疑や意見交換を経た上で、給食費単価の改定はやむを得ない旨の判断がなされ、事務局から改定案を提示したものである。

2 改定率

物価上昇率を勘案した場合、令和2年基準の食料全般に係る消費者物価指数の令和6年4月における推計値は【17.6%】であり、本来であれば、この値を改定率として考えるところである。

しかしながら、令和4年度は、令和5年3月の消費者物価指数が【10.4%】であった状況において、献立設定の工夫により栄養バランスや量を維持した上で、総支出額を前回の改定年度である令和2年度と比べて【3.7%】の増に抑えて執行したことから、今回改定率は、この【3.7%】に、令和5年度中の消費者物価指数の上昇幅推計値【6.0%】を加えた【9.7%】と算定するものである。

3 算定根拠

改定率 9.7%	=	令和4年度支出額の 令和2年度比 (裏面①参照) 3.7%	+	令和5年度中における 消費者物価指数の上昇幅推計値 (裏面②参照) 6.0%
--------------------	---	--	---	---

① 令和2年度及び令和4年度における支出額の比較

年 度	収 入			支 出			
		給食費	市補助金		年間食数	R4年度食数換算	R2年度比
令和2年度	536,632千円	536,632千円	0千円	528,845千円	1,692,453食	551,561千円	-
令和4年度	577,156千円	551,671千円	25,485千円	572,108千円	1,765,148食	572,108千円	3.7%

※ 令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う学校・学級閉鎖により、年間の給食食数が少なく、支出額をそのまま比較することができないため、令和4年度の食数で、令和2年度の支出額を換算し直し、両年度の金額を比較した。

② 消費者物価指数の推計

今回算定に用いる、食料全般に係る消費者物価指数は、総務省統計局が月ごとに公表しているものであり、令和2年を基準（100）としたものである。

令和5年4月から7月までの指数の上昇幅は【1.5%】であり、これを平均すると、ひと月当たり【0.5%】ずつ上昇していることとなる。

8月以降は、この【0.5%】ずつ上昇していくものと考えると、令和6年4月までに【6.0%】上昇することとなる。

このことから、今回改定率には、この【6.0%】を加えることとしたものである。

4 改定した場合の単価

区分		現行(円)	改定率	改定後(円)	増減
小学校	1・2年	289 円	109.7%	317 円	28 円 ↑
	3・4年	292 円		320 円	28 円 ↑
	5・6年	295 円		323 円	28 円 ↑
中学校	351 円	385 円		34 円 ↑	

5 1か月及び12か月当たりの増減見込額

区分		小学校低学年	小学校中学年	小学校高学年	中学校
1か月 (16食)	現行	4,624 円	4,672 円	4,720 円	5,616 円
	改定後	5,072 円	5,120 円	5,168 円	6,160 円
	増減	448 円 ↑	448 円 ↑	448 円 ↑	544 円 ↑
12か月 (189食)	現行	54,621 円	55,188 円	55,755 円	66,339 円
	改定後	59,913 円	60,480 円	61,047 円	72,765 円
	増減	5,292 円 ↑	5,292 円 ↑	5,292 円 ↑	6,426 円 ↑

R5.9.28 第2回理事会における質疑・意見まとめ

No.	ご質問・ご意見	事務局の回答・考え
1	令和6年度は、市からの補助が無いということは決定事項なのか。	現時点では、補助の有無については決まっていないが、今後も市との協議を続けていく。
2	市から補助がなされる可能性は低いということか。令和4年度、令和5年度と補助金が交付されている中で、令和6年度は全く補助が無くなるのは、中々厳しい状況である。	今後、市の財政状況や他の事業の実施予定を見て、補助金の支出について判断されることとなるかと思われるが、今のところは補助がなされるかについては、決定されていない状況である。
3	【上記の事務局説明を受けて】食は命の根源であり、とても大事なもので、物価高だからと言って量を減らすわけにはいかないし、栄養量が少なくなるわけにはいかない、削れない、譲れないことだと思うので、ここはしっかりと進めていただきたい。	—
4	石狩管内7市町村の給食費単価を比較し、江別市が一番高額であるのはなぜか。	主な理由の一つとして、江別市では地元産の食材を多く使用している、ということが挙げられる。令和4年度の地元産野菜の使用率は40%を超えているが、石狩管内の他の市町村では、高くても20%台であり、他市よりも多くの地元産食材を使用していることとなる。もう一つの理由として、当市では他市町村よりも提供するパンの種類が多い、ということが挙げられる。当市では10種類ほどのパンを提供しているが、他市町村では3種類程度が主であると聞いている。このように、ただ単に栄養量が保たれた食事を提供するだけでなく、食育という観点、また、給食を楽しみながら食べる、という観点から献立を設定することにより、このような単価となるものである。
5	給食費の未払いの状況はいかがか。	令和5年度当初の段階で、4千万円ほどの未納額がある。ただ、現年度分における給食費の収納率は、例年、98.5%ほどであり、大多数の方には適切にお支払いいただいているという状況である。

No.	ご質問・ご意見	事務局の回答・考え
6	江別市としては、給食費無償化は検討しているのか。	現時点では、何も決まっていないというところである。ただ、今後とも国の動向を見て、状況によって判断していくこととなるかと思われる。
7	給食費を改定しない場合、今後、給食はどのような形で提供を考えているのか。 例えば、量を減らさざるを得ないということも考えられるのか。	すでに現時点において、市から補助金を受領している中で、あくまで文部科学省が定める学校給食摂取基準の栄養量を維持しながら、献立設定の工夫を凝らしているところであり、比較的高額となるメニューを避け、全体的に安価に抑えるように日々の献立を設定している。 例えば、単価の高いパンや価格高騰が著しい加工食品、ゼリーなどのデザートの提供回数を減らしたり、同じ献立でも使用する食材を安価なものに代えたりしているところである。 来年度、補助も無く、給食費単価を据え置き、さらに物価高騰が継続した場合、こうした工夫をさらに強めていくところだが、それでも限界を迎えた場合には、やむを得ないケースとして、提供品目を1品少なくするなどの見直しが必要となることも考えられる。
8	【給食費の改定と実際の支払額についての事務局の考え】	現時点では、給食費を改定したからと言って、すぐに実際に来年度お支払いいただく金額を値上げするということは考えていない。 今後の国の物価高騰対策などにより財源が確保できるかどうかを勘案し、判断していきたいと考えている。 何の財源も無く、給食費単価を据え置いた場合、やむを得ないケースとして、給食の本身が変わってしまう、今の状況を保つことができない、という事態も想定している。 ただ、給食を安定的に提供するということを最優先に考えており、来年度も補助金の交付について引き続き市に要望しつつ、実際にお支払いいただく給食費について、しっかりと整理していきたいと考えている。
9	【上記の事務局説明を受けて】 今の段階では、給食費の改定について決定したとしても、来年度、実際に皆さんに支払っていただく給食費がどのようになるかは未定であるということか。	昨年度については、理事会に諮った段階で、新型コロナウイルス禍や物価上昇などの環境の移り変わりが激しく、国の対策が見えていない状況で審議いただく中で、あらかじめ市の補助を見込んだ上での話をさせていた。また、その段階では値上げをしない、という決定をいただいたところである。 ただ、今年度については、現時点では市の補助金が交付されるかどうか、具体的に決まっていない状況であるため、今回理事会において、どれほどの給食費単価が適正であるのか審議いただき、決定された改定単価に対して、給食センターとして、どれだけの財源を充てられるか、ということを含め、市との協議に努めていきたいと考えている。